

\*平成25・26年度 ふるさとぎふ再生基金助成事業\*  
「妊娠期からのふたごちゃん・みつごちゃん育児応援事業」報告書

## リスク家庭への切れ目のない支援

\* 多胎版 \*

# ネウボラ neuvola



ネウボラとは・・・  
フィンランドの  
子育て支援政策です



NPO法人 ぎふ多胎ネット

## もくじ

これからの多胎支援 / 切れ目のない支援表	……1
多胎プレパパママ教室	……3
病院ピアサポート	……5
多胎児健診サポート	……7
ピアサポート訪問	……8
双子等育児応援教室(多胎育児教室)	……9
多胎のつどいサポート	……12
多胎ファミリーフェスタ	……13
多胎支援を支える人材と情報	……14

## これからの多胎支援

多胎家庭は妊娠期から情報不足になりやすく、出産後は外出困難や育児困難から孤立しやすい家庭です。このため、虐待死発生率は単胎家庭の3~5倍とされています。

こうした家庭には妊娠期から育児期を通して当事者の立場に立った「切れ目のない支援」が必要です。ぎふ多胎ネットでは団体設立の2006年からこれまで「多胎版ネウボラ」支援を積み重ねてきました。

その内容は右の表にあります。また、その特長は以下の7点です。

これからの多胎育児支援はますます、こうしたソーシャルキャピタルを活かすことが求められるでしょう。

今後も、ぎふ多胎ネットは「多胎版ネウボラ」を進めていきます。「県内のどこでも安心して多胎児を産み育てられる社会」をめざして。

## 多胎版ネウボラ

\*「ネウボラ」とはフィンランドの子育て支援政策のこと。信頼関係を軸とした妊娠期から就学前までの切れ目のない支援に特長がある。

### ① 普遍性の原則

県内在住、県内で出産する全ての多胎妊婦・母子・家族を対象とした支援をしている。

### ② 動機付けの工夫、地域からの祝福

妊娠期から地域行政・医療・ピアに出会う場を設け、多胎妊娠・出産を妊婦とその家族が前向きにとらえられるような支援をしている。

### ③ 当事者中心の切れ目のない支援

妊娠期から育児期のそれぞれのニーズに合った支援メニューを用意し、多胎児の成長に合わせて継続的な支援をしている。

### ④ リスクの早期発見・早期介入・早期支援

当事者との信頼関係を軸にリスクの早期発見・早期介入・早期支援につなげ、その家庭に合ったきめ細やかな手厚い支援をしている。

### ⑤他職種との連携

行政・医療・福祉・教育などの諸分野と信頼・理解を基に連携し、多面的に多胎家庭を支援できるようにしている。また、これらの分野同士を繋ぐ役割も果たしている。

### ⑥当事者をエンパワメントする支援

当事者の人権を尊重し、当事者の力を信じ、寄り添いと共感によって当事者が自分で問題を整理し、解決していけるよう、エンパワメントしていく支援をしている。

### ⑦支援を支える人材の育成

多胎支援の担い手であるサポーターは支援された者が次の支援者となる循環型支援の中で育成され、多胎支援だけでなく、地域を支える子育て支援者となっている。

## 妊娠期からの切れ目のない支援表

妊娠中

出産

育児

#### 多胎フレパママ教室 (P3~P4)

多胎妊婦とご家族対象に、専門家から多胎の妊娠・出産についてのお話をしたり、先輩パパママと交流したりします。

#### 病院ピアサポート (P5~P6)

長良医療センター・県立多治見病院にひと月に1回訪問してお話を聞いたり、相談にのったりします。

#### 多胎児健診サポート (P7)

4ヶ月・10ヶ月健診などのお手伝いをしたり、相談にのったりします。

#### 多胎育児教室 (P9~P11)

おおむね0~3才の多胎親子を対象に、育児教室を開催しています。子どもを遊ばせながら、仲間との情報交換ができます。

#### ピアサポート訪問 (P8)

ご自宅や病室・健診会場に訪問して、お話を聞いたり、体験談をお話ししたりします。

#### 多胎ファミリーフェスタ (P13)

年1回、多胎ファミリーが集まるイベントを開催しています。あそび、リサイクル、相談の各ブースで楽しめます。講演会などもあります。

# 多胎プレパママ教室事業

=ねらい=

- 多胎妊娠への理解と早産予防
- 多胎育児に対するイメージの獲得
- 多胎家族の仲間づくり

=事業の内容=

岐阜・西濃・中濃・東濃・飛騨の5地域で年2回ずつ、父親の出席率を高めるため日曜開催としている。

\*プログラム\*

- 1.多胎の妊娠・出産の基礎知識  
(専門職講義)
- 2.病院での多胎の出産・入院の状況  
(助産師講義)
- 3.多胎の先輩パママとの交流会

=アンケートから=

## 多胎妊娠への理解と早産予防

- 今まで実感がなかったが、今日色々話を聞いて今後の流れや生活のイメージができてよかった。
- 病院のママ教室にも参加したが、聞きたいことが聞けなかったが、多胎教室は色々聞いてよかった。
- 安静にするということが、布団に横になることだと知って驚いた。できるだけ長くお腹の中で育てたい。
- 医者から帝王切開を勧められていたが、今まで十分に頑張ったから、受け入れようという気持ちになれた。
- 単胎との差がこんなにあるとは知らなかった。
- 小さく、早く生まれてくるのが普通だと知った。



## 多胎育児に対するイメージの獲得

\*ママ\*

- 周りに誰も聞ける人がいなかったなので、本当に助かった。
- 実際のふたごみつごママと話せてよかった。体験談が宝物になった。

- とても楽しく、もっと話が聞きたかった。
- 上の子への対応がわかった。

\*パパ・その他\*

- 現状できることがほとんどなく、もよもやしていたが話を聞いて気が楽になった。心構えができた気がする。
- 今こそポイントを稼ぐべきという言葉が印象的でした。
- 何をしたらよいかは、まず妻に聞くことが大事だと分かった。
- なんとなく大変だと思っていたが、どこが大変かよくわかり、話を聞いて心配事が減り、楽しみになってきました。
- たくさんの人を巻き込んでということがわかった。



## 多胎家族の仲間づくり

- 周りが同じような人で安心した。こんなにふたごちゃんのママがいてびっくりした。
- ほかの家庭の話聞いたのがよかった。
- 自分は一人じゃない。仲間がいると思える。
- 岐阜に多胎ネットがあってよかった。

専門職より

- 多胎の妊婦さんとの関わりの大切さを痛感している。こういう場で意見交流して情報や知識を持ってもらいたい。妊娠期から確実にフォローできるように関係各機関の連携と意識づくりが大切である。
- 専門的な講義も先輩からの体験談も、家族そろって聞けるのがよい。
- 集団指導ではあるが個別の課題も発見できる。
- 県総合医療センターも巻き込めるとよい。小児科医

## 多胎プレパママ教室事業

にも参加してほしい。長良以外にも病院サポートがあるとうい。

- 初産、経産それぞれ不安を感じる点が違うのだと知った。
- 普段聞くことのできないパパの声が聞けるのは貴重。
- 多胎妊娠をされた方への産前産後のフォローをしているつもりだったが、もっと丁寧に知識や情報を提供していかなければならない。
- 先輩パパの奥さんや子どもに対する思いが心に残った。
- 今後も支援事業に参加させていただくのはもちろん、自治体の事業にも多胎ネットに入っていたく等で密に連携していきたい。

•講義の部分でイメージしたりない部分を、交流会でフォローできた。

•実父母だけでなく協力してくれる友人や義父母も含めチームを作ることが大切だと知りました。

### 先輩家族より

- 生まれたときのことを思い出し、改めて育児を考えることができた。
- 多胎妊娠は家族で迎えないと乗り切れない。
- 自分もこのような教室に参加してから出産を迎えられたら、もっと安心して待っていられた。
- 専門的な話もあるのにアットホームな雰囲気がい。
- 多胎の当事者だけでなく、社会の共通の意識を持って見守れるといい。

### =参加者内訳=

日にち	場所	妊婦	夫 祖父母他	先輩	講師	医療 行政	スタッフ	託児 スタッフ	子ども	他
5/11	岐阜聖徳学園大学	3	3	3	2		4	2	2	1
5/25	高山市総合福祉センター	中止								
6/8	瑞浪市保健センター	1	3	4	2	2	2	2	5	
7/13	大垣市子育て支援センター	4	5	3	2	1	4	2	10	
8/3	美濃加茂市保健センター	6	7	4	2	2	4	2	7	
10/5	高山市総合福祉センター	2	3	2	2		4		5	
10/19	各務ヶ原市総合福祉会館	中止								
11/9	多治見市保健センター	4	8	2	1	4	3	2	7	1
12/7	大垣市子育て支援センター	3	3	4	2	1	3	3	7	
2/1	みのかも文化の森	1	8	3	2	1	3	2	3	1
合計		24	40	25	15	11	27	15	46	3

### =この事業から見えてきたもの=

- 専門職や先輩家族と対面して話すことで、より具体的に現在の状況や先の見通しを受け入れられた。また、母親だけでなく、家族で理解することで共通の認識ができ、新たな絆も生まれ、家族がチームとして機能する。これが育児困難の軽減につながっている。
- 「周りに誰もいない」といった孤独感は、地域の妊婦家族、先輩、支援者が集まることで軽減される。

•社会とつながりを持った参加者は、出産後早い時期から外出できるようになっている。

これが育児期の孤立感の軽減に役立っている。

•妊娠中から医療、行政、支援者と顔を合わせることで、参加者は安心できる相談先が確保でき、その後の切れ目のない支援につながりやすい。これが、育児不安感の軽減に役立っている。

# 病院ピアサポート(長良医療センター・岐阜県立多治見病院)

## =ねらい=

- ・多胎妊娠の思いや悩み不安を語り、又ピアサポーターの経験を聞くことで、不足しがちな多胎の情報を得たり、妊娠・出産・育児に前向きに取り組めるようにする。
- ・院内で多胎の仲間作りの場を提供する。
- ・他の事業や地域の情報を提供する。

## =事業の内容=

- ① ピアサポーターが各病院に出向き、入院・通院中の多胎妊婦・産婦とその家族の話や、多胎育児経験を話したり、相談にのったりする。
- ② 妊婦・産婦自身に個人情報を提供してもらい、プレパパママ教室や健診サポート等、他の事業も個別に紹介する。

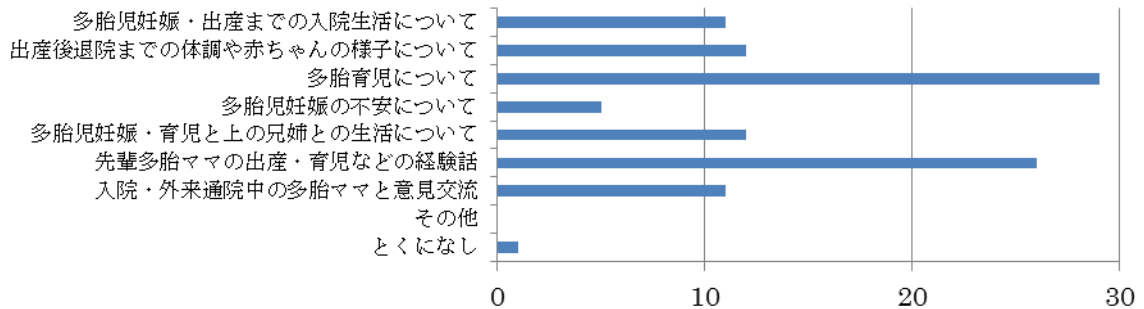
## =参加人数=

妊婦 120名 産婦 5名 家族 17名

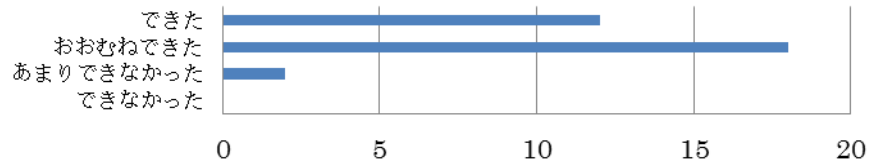
## =アンケートから= 32名(複数回答あり)

(平成26年4月～平成27年1月)

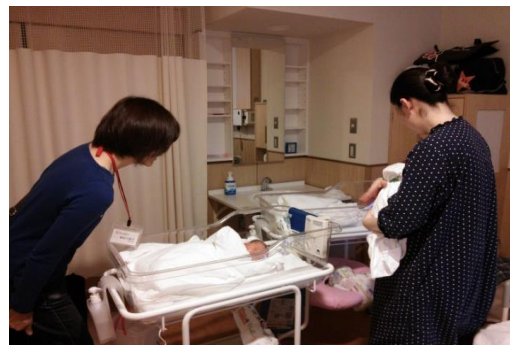
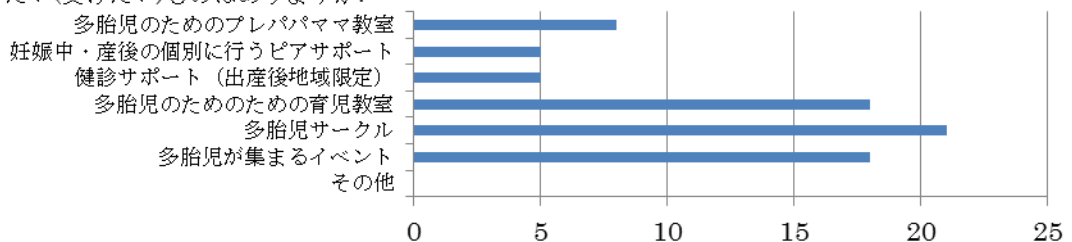
### ①ピアサポートに参加するにあたって、話したり聞きたかったことはありますか？



### ②ピアサポートに参加して上記の事を話したり聞いたりすることはできましたか？



### ③他に参加したい(受けたい)ものはありますか？



### =アンケート自由記載(抜粋)=

#### 相談窓口の獲得

・県内に多胎児家族のために活動をされている方がいる事が分かり、今後何かあった時に頼れる場があり安心しました。

#### 多胎育児の情報の獲得

・先輩多胎ママの経験談を聞いたことで、不安に思っていたことが解消されました。自分のスタイルでやりやすいようにやれば良いと言ってもらえて、気持ちが楽になりました。

・先月に引き続いて参加させていただきました。実際のお子さんの成長記録の写真を見せていただいたり、産後の赤ちゃんの日々の記録方法(ミルクやおムツ替えなど)を教えていただき、先月は漠然と参加しましたが、週数を重ね、現実的に捉えて参加できたような気がします。

・あまり一人で神経を使わないで、家族に助けをもらいながらやっていこうと思います。

#### 悩みの共有、仲間づくり

・上に子供がいて、双子を出産すると双子中心になってしまうと思っていたが、上の子中心ということが印象的でした。

・入院が1ヶ月を越えて気持ちが落ち込んでいたタイミングでの参加でした。同じ状況の方もいらっしまったので、多胎児妊娠だからこそその悩みや不安なども共有することができて、気持ちも少し楽になりました。

・同じ週数くらいのママさんといろいろ話ができ、楽しかったです。産後も仲良くできたら良いなと思いました。

### =この事業から見えてきたもの=

参加したほとんどの方が疑問や思いを話したり聞いたりすることが出来たと回答しており、又、自由記載からも私達のねらいが達成されていることが分かる。とくにこの事業は妊娠中に多胎育児経験者と出会う数少ない機会であり、サポート後に他事業への参加を希望される方が半数以上に増えたことなどから、他事業へ繋げる大切な役割を果たす場でもあると考えられる。

アンケートから、参加者は妊娠中(出産まで)の話より出産後の多胎育児についての情報や経験話を聞きたい傾向が見られた。又、予想外に多胎妊娠の不安について聞きたい方が少なかった。これは入院することで安心感が得られたり、十分なケアを受けているためと考えられる。多胎育児の実際については、私達が経験してきた日々の事であり、当事者同士だから分かり合える所を大切に話していきたい。

参加前は他の多胎ママとの意見交流をしたいと思った方は半数以下であったが、参加後は他事業(育児教室や多胎イベント)や多胎サークルへの参加希望が半数以上に増えた。これは私達と話をした事で、当事者同士話をする事、繋がることの心地良さを感じ、出産後始まる多胎育児においても他の多胎ママ・家族と繋がりをもちたいと思ってもらえたと考えられる。



# 多胎児健診サポート

## =ねらい=

- ・4か月健診・10か月健診の時、歩けない乳幼児を2人以上連れて受けることは母親ひとりでは物理的に困難であり、ストレスも高い。サポートすることでこれらを軽減する。
- ・着替えや移動を手伝うことで、母親ひとりで行うより時間の短縮が図れ、子どもたちのストレスを和らげる。
- ・早産で生まれがちな多胎児は、単胎児に比べからだや運動の発達がゆっくりなことや多胎児育児の大変さなど、多胎児の家庭ならではの悩みを母親の気持ちに寄り添い傾聴し、サポーターが自らの経験を語ることで、先のイメージを持ってもらい不安を軽減する。
- ・同じ経験をした人、している人がたくさんいること、「困った時に相談できる人たち」の存在を知ってもらう。

## =事業の内容=

- ・市町村で行われている4か月健診・10か月健診の際、サポーターを派遣し、母親の健診の手伝いをする。
- ・健診後の会話の中で子育ての悩みを傾聴し、多胎育児のノウハウを伝える。
- ・多胎ネットの活動を知ってもらい、多胎育児経験のある人を頼ってもいいこと、つながっていることを感じてもらう。

	赤ちゃん 訪問	4か月 訪問	10か月 訪問	総数
大垣	6	9	8	23
多治見	6	6	5	17
岐阜	0	1	1	2
計	12	16	14	42



## =アンケートから=

- ・ 2人とも、人見知りで泣いてばかりで困ったが助けてもらえ、嬉しかった。
- ・ 双子の健診ということで色々心配でしたが、ずっと付き添ってもらえ、本当に助かった。
- ・ 2人とも違う人間なので、双子でも違って当たり前という言葉が印象に残った。
- ・ 他の単胎の子と比べたらダメだよ~と言ってもらい安心できた。
- ・ 授乳のことで少し悩んでいたもので、話が聞け助かりました。
- ・ 双子のことを話す機会がなかなかないので、いろいろ話を聞いてもらい、楽しかった。
- ・ 家族以外の人と久しぶりに話ができて、気分転換になった。

## =この事業から見てきたもの=

### 仲間づくりの効果

4か月健診の時、育児教室を紹介しその後教室に参加した何組かが、10か月健診で再会し皆の成長を喜び合い近況報告をし、母親同士会話を弾ませていた。

### 連携した支援

保健師さん等に、折に触れ多胎ネットを紹介してもらうことで、初対面から話しやすく、育児教室など他の事業につながりやすい。

赤ちゃん訪問は保健師さん同行の為、専門的なことは保健師さんが、生活面のことは多胎ネットがと連携した支援ができる。

### 切れ目のない支援

プレパパママ教室からつながりつつある健診サポートが、次の場所、次の人との出会いにつながる機会となり、切れ目のない支援となっていく。



## ピアサポート訪問

### =ねらい=

- 多胎家庭における育児負担は、単胎に比べて重く、特に生後1年間の時期の支援が必要とされる。しかしながら、妊娠期を含めこの時期は、外出が困難であり外部と関わる時間すらない。家庭を訪問して多胎育児経験者が話を聞き、共感、寄り添うことにより、孤立感・不安感の軽減を図りその後の育児の見通しを持つことができるようにする。
- 多胎育児特有の子育てのアドバイスをすることで、育児困難感の軽減を図る。また、地域情報の提供をすることで、地域での孤立化の防止を図る。

### =事業の内容=

- 妊娠期から育児期の多胎家庭を対象として、コーディネーターとピアサポーターが家庭などに訪問し、お話を伺ったり経験をお話したり、相談支援を行う。
- 必要に応じて、行政や専門機関に繋ぐ。

多胎児の月齢	件数	利用者	場所
妊娠中	0	母親 父親 祖母	自宅・実家
0～5ヶ月	10		入院先
6ヶ月～11ヶ月	2		健診先の病院
1歳～2歳	1		保健センター
2歳～	2		(健診時) その他
計	15		



### =アンケートから=

- また明日から頑張れそうです。また凹むことがあったらよろしくお祈りします。
- 先輩双子ママとゆっくりおしゃべりできて、良かったです。うちの双子も遊んでもらえて、私も少し休憩できました。
- 「これからこうなるかも…」という心構えもできてありがたかったです。
- 全く身よりや知り合いのいない土地での育児中ですので、お話できること、また地域のことを教えて頂けて本当に有難かったです。

### =この事業から見えてきたもの=

#### 不安の軽減

妊娠中、および出産後は、外出が困難であることから情報も得難い。家庭に訪問することで、不安感、孤立感を軽減し、継続して多胎ネットと関わって繋がっていくことができる。

#### 切れ目のない支援

訪問した際には、利用できる健診サポート、育児教室の案内をし、その後利用できるサポートを可能な限り伝え、切れ目のない支援に繋がっていくことができる。

#### 家族支援

父親や祖母など母親以外の利用もあった。多胎は家族がチームとなって育児をせざるを得ない。家庭に訪問するピアサポートはこうした家族支援の場ともなっている。

プレパパママ教室で多胎ネットと出会い、信頼を持ってもらったことが、母親だけでなく家族にとっても、困った時の相談先となっており、次の支援に繋がっている。

# 双子等育児応援教室（多胎育児教室）

=ねらい=

## 参加者のエンパワメント:

多胎育児者の困り感・不安感などニーズを把握し、これを軽減していく。また、今後の支援の方法を検討する。

## 仲間づくり:

多胎育児の大変さは、ひとりで抱え込まず、気楽に仲間に話す事で軽減できる事が多いため、多胎育児者であることをキーワードに、互いに助け合うこと、つながることの必要性をひとりひとりが感じ取れるような体験をする。これにより支え合う仲間づくりが実践できるようにし、地域の子育て環境を整える。

## 支援者の育成:

循環型子育て支援の基盤作りを図り、ぎふ多胎ネットのピアサポーターになることへの関心を持ってもらう。

## 地域の育成:

多胎育児者、支援者、行政関係者などに広くぎふ多胎ネットの活動を知ってもらうきっかけとし、ピアサポートの必要性を伝えて行くことで地域の多胎支援のボトムアップを図る。

## 支援者の継続:

支援者、行政関係者などに教室の必要性を理解してもらい、今後、地域と協力して教室を維持する方法を模索する。

## スタッフの育成:

ニーズに基づいた今後の教室内容の展開を検討し、講師、アドバイザーとしてやっていけるようにする。スタッフのボトムアップを図る。

=事業内容=

## (教室の内容)

- 多胎ならではの親子で楽しめる遊び
- 子育ての知識と多胎育児のノウハウを学び合い、悩みを共有し合えるような話し合い

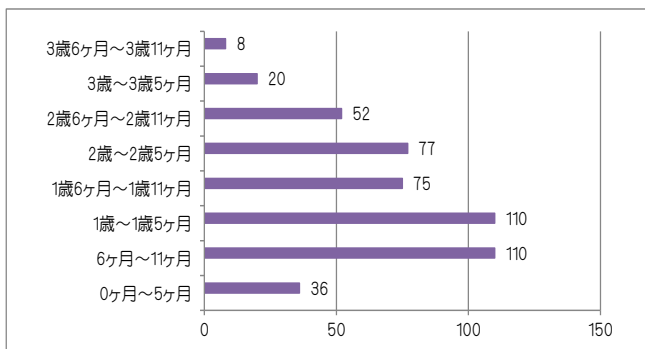
- 1回目:親子手遊び・お互いを知るために妊娠、出産の様子を話し合う。
- 2回目:親子手遊び・自分と子どもとの一日を振り返り、話し合う。
- 3回目:親子手遊び・スタッフの自己紹介と参加者の今の状況を聞き合う。
- 4回目:親子手遊び・双子ならではの子育ての苦労や喜びを話し合う。

(開催場所・日時・参加人数) (1/31までの申込者数)

場 所	日 時	参 加 人 数(人)			
		母	多胎児	兄弟	父/祖母
岐阜 岐阜保健所	4/4・4/11・4/18・4/25	20	40	5	3
飛騨 まちひとぶら座かんかこかん 高山市総合福祉センター	5/8 5/15・5/22・5/29	7	15	0	0
西濃 中川コミュニティーセンター	6/6・6/13・6/20・6/27	30	61	1	6
恵那 東野コミュニティーセンター 恵那市保健センター	7/4・7/18・7/25 7/11	13	26	1	0
東濃 多治見市総合福祉センター 多治見市根本交流センター	9/4 9/11・9/18・9/25	18	36	1	1
中濃 可児市保健センター	9/5・9/12・9/19・9/26	23	46	0	3
岐阜 岐阜聖徳学園大学	10/3・10/10・10/17・10/24	44	89	3	5
飛騨 高山市総合福祉センター まちひとぶら座かんかこかん	10/31・11/6・11/20 11/13	10	21	0	0
西濃 安八町保健センター	11/27・12/5・12/11・12/19	28	56	0	2
恵那 恵那市保健センター 中央コミュニティーセンター	12/・26 1/9・1/16・1/23	16	32	0	0
東濃 多治見市根本交流センター	2/5・2/13・2/20・2/27	15	30	1	0
中濃 可児市保健センター	1/30・2/6・2/12・2/19	18	36	1	1
合 計		242	488	13	21

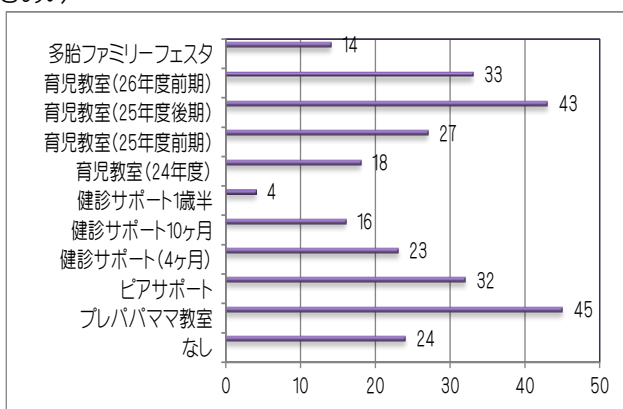
## 双子等育児応援教室

(ふたごちゃん・みつごちゃんの年齢)  
(申込者数 488 名から)

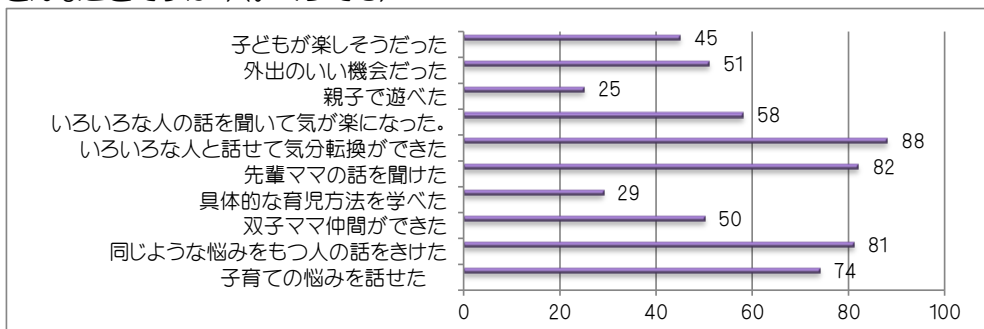


### =アンケートから(1/31までのアンケート 124 名) =

(これまでにごふ多胎ネットの活動に参加したことがあるもの。)



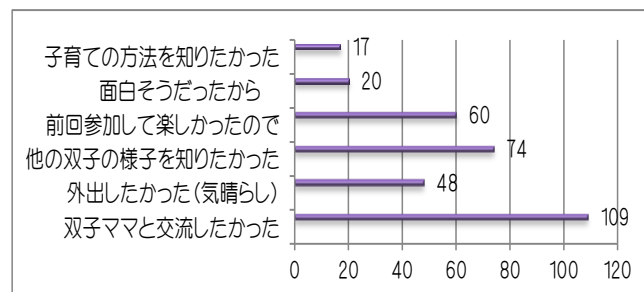
(教室に参加することで、あなたが「できた」と感じたのはどんなことですか。)(いくつでも)



### 【自由記述から】(抜粋)

- 以前から来たいと思っていて、今日やっと来てとても嬉しかったです。初めて一人で連れてきましたが、いろいろな経験をして、これから先もお出かける自信ができました。
- 双子ならではの悩みに、先生とかではなく、ママたちが答えてくれるので、とても心強いし、頑張れる。
- 出産後、社会と交わる時間が持てて良かったです。大変お世話になりました。
- 色々な年齢の双子ちゃんを見たり、育児の話を聞け

(この教室に参加しようと思われたのはなぜですか)



たのは、今後自分の子もこう成長するのかなとか考えてよかったです。

- 本当に良い会でした。多胎家庭というのは想像以上に多いことが知れて、私のような状況にあるのは一人だけのことではないと知れたのは大変励みになりました。来年度以降も是非つづけて頂きたいです。
- 同士と思える人たちとの話ができて心強かったです。
- 気がつけば自分が先輩ママになっていて、懐かし

## 双子等育児応援教室

いなと思いつつ自分も少しでも参加して他の人の役に立てたらいい。

- ・悩みを相談できたり、一緒くらいの子どもの育て方を聞いて、頑張りすぎてたことが分かって、気持ち的に楽になりました。
- ・双子の子育ての具体的方法を聞くことができ、今後の子育てもイメージすることができました。育てるのが大変と毎日思い悩んでましたが、みんな同じような思いをしているんだって知ることによって安心できました。本当に参加してよかったです。お手伝いをしてくださった先輩双子ママの話の聞いて

て、涙が出ました。双子を育ててよかったと思う日が必ずくるという事をきき、その言葉を信じてこれからもがんばろうと思います。



### =この事業から見えてきたもの=

#### 切れ目のない支援で早期に外出

プレパパママ教室や病院サポートなど切れ目のない支援の効果で、前年度 136 名、今年度は前年度の 2 倍近い 240 名を超す参加者があった。支援のつながりにより、生後 6 ヶ月頃と早い時期からの参加が多くその後半ごとに行われる教室へとくりかえし参加している。

#### 孤立感の軽減

リスクの多い妊娠期から、出産後も大変な生活をしているママたちが「双子ママと交流したかった。」「他の双子の様子を知りたかった」という思いのもとに集まり、この会をきっかけに外出の機会を得て、日常生活の様子を、気楽に仲間に話す事で、「いろいろ人と話せて気分転換になった」「先輩ママの話の聞いた」「同じような悩みをもつ人の話を聞いた」といった感想を持ち、同じような状況で子育てをしている人が他にもいる事を知った。

#### 異年齢のメリット

少し先の子どもの様子やママの様子をイメージすることができて、気持ちを楽しめることができている。大きい子のママは、自分が積み重ねて来た事を自分より小さい子を育てているママたちに伝える事で自分自身の子育てを肯定していくことにつながっている。

#### 参加者のエンパワメント

この会に 3 年続けて参加してくれた人たちは、助け合うこと、つながることの必要性をひとりひとりが

感じ取り、自分たちで集うための工夫をし、ラインで繋がる、ラインで呼びかけ集うといった自主的な動きがみられるようになってきた。

#### 支援者の育成

また参加者の中から、「ピンクの T シャツを着る人になりたい」といった気持ちが生まれ、ぎふ多胎ネットのピアサポーターになる人も出てきた。

#### 今後の課題

このように、参加者自身が多胎同士で繋がり、助け合うことが必要と思われ、集いたいと思う気持ちが育ちつつあるが、小さい子を育てながらやって行くには各地域の行政による様々な助けが必要と思われる。その一方で、ぎふ多胎ネットの育児教室をこれまでのような形で続けて行くことも、当然ながら必要になる。

今後、行政だけに留まらず、子育てを考える大学や企業などにも働きかけていく必要があると思われる。



# 多胎のつどいサポート

## =ねらい=

- 行政主催の「双子の会」などのつどいの参加者や、各地域の自主サークルの会員に対し、先輩ママとして経験談を話したり悩みごとを聴いたりして、育児困難感を軽減する。
- 地域の多胎の子育て仲間とつながり、互いにはげましあいながら前向きに子育てしていけるようにサポートする。
- ぎふ多胎ネットで実施している他の支援メニューを紹介し、ニーズに合った支援を受けられるようにする。
- 行政・子育て支援機関と連携し情報を共有して、有効的な支援をおこなえるようにする。

## =事業の内容=

- 各地域の多胎のつどいやサークルにサポーターを派遣しピアサポートをおこなう。また、参加者にぎふ多胎ネットの活動ほか、さまざまな多胎育児情報を提供する。
- 行政や子育て支援機関に対して多胎支援の必要性を周知し、よりよいつどいの継続につなげる。
- サークルの運営相談をする。
- 地域の情報を収集する。

## =参加者の声=

違う地域から嫁いできて知り合いがいない中での子育てで心細かったのですが、つどいに参加するようになり、ふたご育児について話し合える仲間ができて、本当によかったです。

## =この事業から見えてきたもの=

### エンパワメント

つどいやサークルの参加者がサポートを受けることによってエンパワメントされ、ぎふ多胎ネットに対し信頼感を持ち、育児教室などほかの事業につながる力と機会を得た。

### 仲間づくり

同じ立場の仲間と出会うことにつながることによって、つどいやサークル以外でも日常的に一緒に外出したり、日頃から情報交換をしている。これにより、孤立感が解消され多胎育児を楽しめるようになるケースが多い。

### 早期発見・早期支援

サポートで個々に関わることで、発達の心配などに気づき、すぐに保健師・保育士などにつなげることができ、さまざまな角度から支援できるようになる。

### 現代の子育て状況

ネット環境の普及の影響もあって、以前と比べて自主サークルの運営が困難化してきており、活動休止になったり、イベント時は人が集まっても普段の活動は参加が少ない、といった問題を抱えている。多胎親子が安心して集える場所を行政など地域と連携して支えていく必要がある。



日時	場所	参加人数(人)	
		大人	子ども
H26.6.29(日)	大垣市スイトピアセンター「多胎サークル」	2	3
H26.7.16(水)	中津川市子育て支援センター・ほっとけーき「ふたごちゃんの会」	6	12
H26.7.24(木)	岐阜市長森コミュニティセンター「G・ツインズ」	19	42
H26.9.3(水)	中津川市子育て支援センター・ほっとけーき「ふたごちゃんの会」	8	16
H26.9.18(木)	瑞浪市子育て支援センター・おんぶにだっこ「ふたごちゃんの会」	5	10
H27.2.27(金)	恵那市文化センター 【予定】	-	-
H27.3.13(金)	恵那市文化センター 【予定】	-	-

# 多胎ファミリーフェスタ

## =ねらい=

- たくさんの多胎家族が集まるイベントで、参加者がいろいろな家族と出会い交流することで、孤立感を軽減し、仲間づくりのきっかけにする。
- 相談ブースで、子育てや成長発達などの個人的な悩みに対し専門家からアドバイスをおこない、解決にみちびくようにする。
- フェスタスタッフから先輩ママとしての話を聞く等ぎふ多胎ネットとつながりを持つことによって、今後も別の支援メニューに参加しやすくする。

## =事業の内容=

年1回の恒例となっている『多胎』のイベントで、中部学院大学短期大学部と共催で毎年開催している。今年も、午前の部で親子あそび、子育て相談、マネー相談、助産師相談、リサイクルをおこない、午後の部で「ふたごパパトーク会」と「ママ対象ワンコインエステ」を並行しておこなった。(午後は託児付き)午前の部の参加家族が多く、特にリサイクルは昨年に続いて非常に盛況であった。午後の「パパトーク会」では、ふたごの妊娠から出産・育児までのパパの気持ちや子育ての関わり方などについて聞くことができた貴重な機会であった。

### \*参加家族\*

一日券:14組	合計:68組
午前券:53組	
午後券:1組	



## =アンケートから=

•まわりにふたごの親がないためなかなか相談ができないので、子どもたちを同じ年齢くらいの子と遊ばせたり、先輩ふたごママと話ができて、本当に

よかったです。また参加します。

- ふたごにとって、最高のイベントですね！リサイクルでもたくさんいただきました。大活躍させようと思います。相談ブースでは、どうしても単胎の子とくらべていましたが「これでいいんだ」と思うことができ、嬉しかったです。
- パパトーク会は、めったに聞けないパパのいろいろな意見を聞くことができた貴重な機会でした。家族を思う気持ちに胸があつくなりました。
- エステやリサイクル、ママにとって嬉しい企画でありがたかったです。すごく楽しい時間を過ごせました。



## =この事業から見てきたもの=

### 現代の子育て事情

多胎サークルが衰退の傾向の中、安心して多胎の仲間とつどえる場所が限られてきており、フェスタのようなリサイクルもおこなうイベントに集中しやすくなってきている。

### つどいの場の提供

年々フェスタが周知され、リピーターも増えてきており、今年も悪天候にも関わらず参加者が最多であった。多胎ファミリーが安心して外出できる場が求められている。

### 信頼感が次の支援へ

今年も、0～1才代のふたごファミリーの参加が多かった。各地でおこなってきた育児教室の参加者がほとんどで、育児教室でぎふ多胎ネットへの信頼感の獲得が、積極的なフェスタへの参加につながったと思われる。

\*平成27年3月発行\*



## 特定非営利活動法人 ぎふ多胎ネット

理事長 糸井川誠子  
〒507-0814 岐阜県多治見市市之倉町13-83-536  
tel/fax 0572-24-2322  
e-mail gifu.tatamainet@gmail.com  
URL <http://gifutatamainet.blog92.fc2.com/>



このマークは、多胎児家庭を取り巻く3つのハートを合わせることを表しています。

- 1つは、保健師・子ども課の職員など子ども関係の行政職です。
- 1つは、医師・助産師・看護師などの医療関係者や大学の研究者などの専門職です。
- 1つは、さまざまな子育て支援団体や多胎の先輩ママを含む子育て支援者です。

どれも欠けても多胎児家庭の支援は成り立ちません。  
3つの立場の者が、それぞれの心を持ち寄り一緒に多胎児家庭の支援をしていくことで、  
多胎児家庭が笑顔で過ごせるように、という願いが、このマークには込められています。